

提言に対する改善報告書

大 学 名 山梨英和大学

評価申請年度 2 0 0 9

2 0 1 3 年 7 月 提 出 山梨英和大学

改善報告書提出項目（助言事項）

- 1.（教育内容・方法 / 教育課程等）人間文化学部の2009（平成21）年度3年次編入学生に対し、2009（平成21）年度に改正した新入学生対応の新カリキュラムを受講させていることは、体系的学修の点から、改善が望まれる。
- 2.（教育内容・方法 / 教育課程等）人間文化研究科において、2008（平成20）年度の在籍学生のうち、40%が就業中または就業経験者であることを考慮すると、教育課程や時間割編成上の特別な配慮がなされていないので、改善が望まれる。）
- 3.（教育内容・方法 / 教育方法等）人間文化学部、人間文化研究科のシラバスは、記載内容に精粗があり、授業計画や成績評価基準が明示されていないので、改善が望まれる。
- 4.（教育内容・方法 / 教育方法等）人間文化研究科のFD活動が、教員の研究発表にとどまっているので、授業および研究指導の内容・方法の改善を図るために組織的に取り組まれることが望まれる。
- 5.（教育内容・方法 / 教育研究交流）「国際社会において活動できる人材育成」という目標の達成に向け、留学生の受け入れだけでなく、双方向での交流となるよう改善が望まれる。大学院においても、教員と大学院学生との研究交流が活発になり、大学院学生の研究や研究交流が国際性を意識した活動になることが望まれる。
- 6.（教育内容・方法 / 教育研究交流）中期留学制度（カナダにおける15週間の研修とボランティアワークなど）において、20単位と学修時間に比して過大な単位を認定していることは、単位制の趣旨に照らして、改善が望まれる。
- 7.（教育内容・方法 / 学位授与・課程修了の認定）学位論文審査基準の学生への明示が不十分であるので、大学院履修要項などに明示することが望まれる。
- 8.（研究環境）提出された資料によると、研究活動が低調な教員が散見されるので、研究活動のさらなる活性化を図り、継続性を確保するよう改善が望まれる。また、在外・内地研究員制度が活用できていないので、制度を利用できるよう研究環境を整えることが望まれる。
- 9.（教員組織）専任教員の年齢構成において、51～60歳の割合が34.3%と多いので、全体的なバランスを保つよう、今後の教員採用計画などにおいて、改善の努力が望まれる。
- 10.（施設・設備）大学院学生用のパソコンの台数が大学院学生の数に比して不足していること、インターネットへの接続が不自由なことなど、大学院学生の研究環境に問題がみられるので改善が望まれる。
- 11.（財務）今後、学生数の確保による学生生徒等納付金収入の増により、単年度における安定した財政基盤の強化を図るとともに、繰越消費支出超過額を解消することが求められる。

提言に対する改善報告書

大学名称 山梨英和大学 (評価申請年度 2009)

1. 助言について

No.	種 別	内 容
1	基準項目	1 教育内容・方法
	指摘事項	(1) 教育課程等 1) 人間文化学部の 2009 (平成 21) 年度 3 年次編入学生に対し、2009 (平成 21) 年度に改正した新入学生対応の新カリキュラムを受講させていることは、体系的学修の点から、改善が望まれる。
	評価当時の状況	2009 年度新カリキュラム導入に対応して、3 年次編入学生の既修得単位認定については、これまでどおり 62 単位を一括認定し、新カリキュラムにおける「基礎科目群」の必修分 18 単位、「基盤科目群」及び「専門科目群」から 44 単位を修得したものとみなすこととした。
	評価後の改善状況	2009 年 1 月 15 日付けで申請を行った大学評価に係る評価結果の判定が平成 22 年 3 月 12 日付け大基委大評第 300 号で行われたものであるため、①既にこの時点において 2009 年度新カリキュラムによる 2009 年度 3 年次編入学生の学年が進んでいたこと、②改善の対象となる 3 年次編入学生が 2009 年度及び 2010 年度の 2 年に限られること、③2010 年度 3 年次編入学生から改善した場合には、新たに 2009 年度 3 年次編入学生と 2010 年度 3 年次編入学生との教育課程が相異なる問題が生ずること、④新カリキュラムが現状の課題を検討した結果を踏まえて策定した学生ニーズに叶う 7 コース制を取り入れていることにより、旧カリキュラムに比べ学生に優位であること、⑤旧カリキュラムにおける 1 年次、2 年次配当科目と新カリキュラムにおける 1 年次、2 年次配当科目は、人間文化学を学ぶ基礎科目としての継続性・体系性を有していること、等を踏まえ継続したところである。 なお、今後、同様の事例が生じた場合にあつては、助言の趣旨を踏まえ、適切に対応します。 また、2009 年度及び 2010 年度 3 年次編入学生の状況は、次のとおりであった。

改善状況を示す具体的な根拠・データ等					
区 分	2009 年度	2010 年度	合 計	備 考	
入学者数	64 名	66 名	130 名		
卒業生数	62 名	61 名	123 名		
2011 年 3 月	59 名				
2011 年 9 月	1 名				
2012 年 3 月	2 名	59 名			
2012 年 9 月		1 名			
2013 年 3 月		1 名			
2011 年 3 月					
退学者	0 名	3 名	3 名	進路変更等	
除籍者	2 名	2 名	4 名	学費未納	
< 大学基準協会使用欄 >					
検討所見					
改善状況に対する評定	1	2	3	4	5

提言に対する改善報告書

大学名称 山梨英和大学 (評価申請年度 2009)

1. 助言について

No.	種 別	内 容
2	基準項目	1 教育内容・方法
	指摘事項	(1) 教育課程等 2) 人間文化研究科において、2008 (平成 20) 年度の在籍学生のうち、40%が就業中または就業経験者であることを考慮すると、教育課程や時間割編成上の特別な配慮がなされていないので、改善が望まれる。
	評価当時の状況	本大学院では現在までのところ、社会人学生及び外国人留学生に配慮する教育課程を編成するには至っていないことから、そうした課程に基づいた教育研究指導上の配慮も実施していないが、2008年5月現在で在籍している学生のうち40%に相当する者が、就業中または就業経験者に該当する。
	評価後の改善状況	大学院の年度別入学者数と入学者に占める社会人学生数の推移の状況分析等を踏まえ、2014年度から仕事に従事しながら大学院での研鑽を通して臨床心理士を目指す社会人大学院生等の勉学環境を整備することを目的とした長期履修制度の導入に向け、大学院学則の一部改正を行った。 2008年度:入学者 14名(内社会人 4名) 28.5% 2009年度:入学者 14名(内社会人 8名) 57.1% 2010年度:入学者 15名(内社会人 4名) 26.6% 2011年度:入学者 14名(内社会人 5名) 35.7% 2012年度:入学者 15名(内社会人 5名) 33.3% 2013年度:入学者 15名(内社会人 5名) 33.3%
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等 1. 山梨英和大学大学院学則の一部改改正の新旧対照表 (関係条文のみ) 2. 山梨英和大学 CAMPUS GUIDE 2014 (21 ページ、抜粋)	
	< 大学基準協会使用欄 >	
	検討所見	
	改善状況に対する評定	1 2 3 4 5

提言に対する改善報告書

大学名称 山梨英和大学 (評価申請年度 2009)

1. 助言について

No.	種 別	内 容			
3	基準項目	1 教育内容・方法			
	指摘事項	(2) 教育方法等 1) 人間文化学部、人間文化研究科のシラバスは、記載内容に精粗があり、授業計画や成績評価基準が明示されていないので、改善が望まれる。			
	評価当時の状況	シラバスは学生の学修活性化を目的として毎年度単独冊子として作成し、すべての学生及び教員に配付している。内容は、授業科目名、クラス、担当教員名、必修・選択の区分、単位数、配当年次、開講期間を示したうえで、授業のねらい、授業計画、履修の留意点と評価方法及びテキストの4項目を、原則48文字20行の一定書式により掲載している。項目ごとの行数は指定しないが、4項目すべてに言及しなければならない。 査読の要点を全必須項目への言及、全体の分量、複数評価指標の明示に限定していたため、特に授業計画の項目は、記述程度に若干の精粗が残る結果となった。			
	評価後の改善状況	2010年度以降のシラバスにおいては、各授業科目において、授業の概要、到達目標、授業計画(項目及び内容説明)、成績評価の方法(評価対象及び割合)、教科書・参考書、関連科目・前提科目、履修上の注意、オフィスアワーの項目を設け、記載内容の精粗、改善を図った。 なお、シラバスは、従来ホームページ上にPDFで公開していたが、2012年度からWebシステム上での公開に改め、シラバス検索を可能にした。			
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等	1. SYLLABUS2010(完全版)(別冊資料1) 2. 2012年度シラバスの原稿作成について(依頼)(2012年度シラバス作成について) 3. 大学ホームページ「シラバス」(サイト入口画面ページ) ホームページアドレス http://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/			
<大学基準協会使用欄>					
検討所見					
改善状況に対する評定	1	2	3	4	5

提言に対する改善報告書

大学名称 山梨英和大学 (評価申請年度 2009)

1. 助言について

No.	種 別	内 容
4	基準項目	1 教育内容・方法
	指摘事項	(2) 教育方法等 2) 人間文化研究科のFD活動が、教員の研究発表にとどまっているので、授業および研究指導の内容・方法の改善を図るために組織的に取り組まれることが望まれる。
	評価当時の状況	本大学院設置に向けた構想の中で、「FD 推進委員会」(仮称)を設置し、活動の推進を図るために以下の取り組みを計画した。 (1) 評価制度の導入 ①学生による授業評価、② 修了生による大学院教育の評価、③企業、関連諸機関及び他大学院などの外部評価一の実施と結果の公表 (2) 研修制度の確立 ①各教員の研究成果を発表し、相互啓発を行うなどの研究会の開催、② 諸評価の結果に基づく教育研究方法の改善を検討する作業部会の設置 学部においては2008 年度から組織的FDの取り組みとして「FD 研究会」が発足し、大学院研究科所属教員を学部教員(教授1名を除く)が兼担していることから、当該研究会において研究成果を発表し、教育研究能力の向上を目指して相互啓発を行う機会を得ているが、大学院独自の視点による具体的取り組みには至っていない。
評価後の改善状況	組織的FD活動(大学設置基準及び大学院設置基準に基づき学部及び大学院の教育内容及び方法の改善を図ること並びに個々の教員の研究活動を支援することに関する組織的な活動)を行う組織の設置が必要であること等を踏まえ、2009年7月24日に「山梨英和大学FD推進委員会規程」を制定・施行し、同規定に基づき、本学のFDを全学的・組織的に推進し、学部及び大学院の教育内容・方法の改善を図るとともに、個々の教員の研究活動を支援することで、建学の理念及び教育目標に基づく人間文化学部人間文化学科(一学部一学科)としての教育研究活動の展開に資するために、山梨英和大学FD推進委員会を設置した。(組織変更及びSDを併せて推進するため、委員会名称を「山梨英和大学FD・SD推進委員会規程」に改めることに係り2012年1月27日一部改正) 大学院においては、「心理臨床」に焦点を当てた	

		<p>教育・訓練システムの質向上等が必要であること等を踏まえ、2010年9月24日に委員会の構成・運営・任務、作業部会、等を詳細に定める「山梨英和大学大学院FD推進委員会規程」を制定・施行し大学院FD推進委員会を分離、設置した。</p> <p>山梨英和大学FD・SD推進委員会及び山梨英和大学大学院FD推進委員会における活動としては、教員の研究発表(紹介)の他に授業見学会の実施(授業見学報告書の提出)、外部又は内部講師による諸事項の研修会・講演会の実施、日本私立大学連盟主催のFD推進会議への教職員の派遣、等を行い、授業及び研究指導の内容・方法の改善並びに職員・組織の資質向上・能力開発のための組織的な取り組みを模索している。</p> <p>大学院FD活動としては、「山梨英和大学大学院FD推進委員会規程」に基づき、日本私立大学連盟主催の平成25年度FD推進ワークショップ(新任専任教員向け)に本年度採用した大学院兼担専任教員(准教授1名、助教1名)を派遣することを決定し、FDに関する見識、実践的理解を深める機会を提供するものとし、また、開学当時から実施している「大学院生による授業評価(前期、後期別)」及び「学生生活アンケート」結果を踏まえ改善に努めている。なお、2013年度からシラバスチェックを試行し、授業および研究指導の内容・方法の改善を推進している。</p>
	<p>改善状況を示す具体的な根拠・データ等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 山梨英和大学FD・SD推進委員会規程 2. 山梨英和大学大学院FD推進委員会規程 3. 平成25年度FD推進ワークショップ(新任専任教員向け) 大学教員の職能開発とFD(開催要項) 4. 2012年度前期・後期「大学院生による授業評価」集計結果 5. 2012年度学生生活アンケート集計結果 6. シラバス相互チェックの方法(シラバスのチェックポイント) 	
	<p><大学基準協会使用欄></p>	
	<p>検討所見</p>	
	<p>改善状況に対する評定</p>	<p>1 2 3 4 5</p>

提言に対する改善報告書

大学名称 山梨英和大学 (評価申請年度 2009)

1. 助言について

No.	種 別	内 容
5	基準項目	1 教育内容・方法
	指摘事項	(3) 教育研究交流 1) 「国際社会において活動できる人材育成」という目標の達成に向け、留学生の受け入れだけでなく、双方向での交流となるよう改善が望まれる。大学院においても、教員と大学院学生との研究交流が活発になり、大学院学生の研究や研究交流が国際性を意識した活動になることが望まれる。
	評価当時の状況	本研究科においては、国際的な教育研究交流に関する基本方針は未策定の状況である。また、外国人研究者を受け入れる規程がなく、本学が相互交流協定を締結している大学などとの教員交流や共同研究には至っていない。活動の実情としても、個人的な範疇での国際学会への参加や学会における国際交流に関する委員としての活動にとどまっており、組織的な動きはない。
	評価後の改善状況	1 学生の交流 (1) 交換留学 交換留学生については、2010 年度以降次のとおり日本人の交換留学生の派遣を行い、双方向での交流が広がりつつある。 ①2010 年 3 月から 2011 年 2 月まで 建陽大学校 (韓国)、35 単位認定 (2 年生) ②2010 年 9 月から 2011 年 8 月まで 建陽大学校 (韓国)、37 単位認定 (2 年生) ③2010 年 9 月から 2011 年 8 月まで 大連大学 (中国)、42 単位認定 (2 年生) ④2011 年 3 月から 2012 年 2 月まで 忠南大学校 (韓国)、28 単位認定 (1 年生) ⑤2011 年 3 月から 2012 年 2 月まで 全州大学校 (韓国)、30 単位認定 (2 年生) ⑥2011 年 9 月から 2012 年 2 月まで 建陽大学校 (韓国)、17 単位認定 (2 年生) ⑦2012 年 3 月から 2013 年 1 月まで 忠南大学校 (韓国)、18 単位認定 (4 年生) なお、2013 年度は、3 名が大連大学 (中国:4 年生)、忠南大学校 (韓国:3 年生)、建陽大学校 (韓国:2 年生) に留学中である。 (2) オーストラリア認定留学 オーストラリア認定留学生については、2012

	<p>年度からサザンクロス大学に概ね1年間留学し、留学期間、留学先での取得単位数に応じ、本学の単位として認定する制度を導入し、双方向での交流の拡大を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2012年度 単位認定状況 6名、23～27単位 なお、2013年度は、1名(3年生)が留学中(2013.4～2014.1)である。 <p>(3) 海外インターンシップ</p> <p>海外インターンシップについては、2013年度から「海外インターンシップ(2単位)」を授業科目として開講し、大学での1週間の事前英語学習を経て、サザンクロス大学(オーストラリア)での1週間の現地語学研修後に現地企業に1週間のインターンシップを行うものとし、双方向での交流の拡大を図っている。</p> <p>なお、2013年度は、4名が履修中である。</p> <p>(4) 体験としての異文化理解</p> <p>「体験としての異文化理解」A(韓国)、B(中国)については、2単位の集中講義として開講し、夏季休業中の10日程度の日程で韓国又は中国を訪れ、協定大学等の学生との交流、語学学習、文化体験・見学等を通じて、多文化・異文化の理解を深めるものとして従前來、次のとおり実施し、双方向での交流の拡大を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①2010年度履修者数 A:5名、B:閉講 ②2011年度履修者数 A:6名、B:10名 ③2012年度履修者数 A:5名、B:6名 ④2013年度履修者数 A:閉講、B:閉講 <p>2 教員の交流</p> <p>教員の交流については、2009年4月1日に客員教員について必要な事項を定める「山梨英和大学客員教員に関する規程」を制定・施行し、規定に基づき、2011年度以降次のとおり客員教授等として外国大学の研究者の受入れを行い、双方向での交流の拡大を目指している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①2011年1月25日から1月31日まで宋協毅客員教授(大連大学副学長・教授)及び張美蓉客員教授(大連大学教授)を招き教育・研究交流、学生への特別講演を行った。 ②2011年4月17日から9月30日まで朴正龍客員教授(東北電力大学外国語学院副院長・教授)を招き、「日本文化入門A」(半期・2単位)を開講し、日本人の国民性を探る授業を行った。 ③2012年4月1日から9月30日まで劉峰客員准教授(江蘇省准陰師範学院外国語学院講師)を招き、「生活の中の中国語」(半期・1単位)を開講し、中国語、中国での日常生活において必要となる事柄を探る授業を行った。 <p>3 大学院生の交流</p> <p>大学院学生の活動については、2009年度末から大学院生の研究や研究交流の国際性を意識し</p>
--	--

	<p>た活動としてイギリスのタビストックセンターでの研修を行うプログラムの検討・調整を行い、英国の国立の治療・訓練・研究機関であるタビストック・クリニックでの研修を通じて、精神分析の考え方と実践を体験的に学ぶことを目的とし、臨床心理技術の習得、他業種と連携しての効果的な地域支援の方法の習得を目指し、次のとおり教育研究交流を行っている。</p> <p>①2010年2月28日から3月9日まで 引率教員2名、大学院生9名参加</p> <p>②2011年2月25日から3月7日まで 引率教員2名、大学院生9名</p> <p>③2012年2月24日から3月5日まで 引率教員3名、大学院生5名参加</p> <p>④2013年3月1日から3月11日まで 引率教員2名、大学院生6名参加</p>
<p>改善状況を示す具体的な根拠・データ等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中国・韓国協定校交換留学募集要項 2. オーストラリア長期留学募集要項 3. 海外インターンシップ募集要項 4. 体験としての異文化理解A、B募集要項 5. 山梨英和大学客員教員に関する規程 6. 2012年度大学院タビストックセンター研修について 	
<p><大学基準協会使用欄></p>	
<p>検討所見</p>	
<p>改善状況に対する評定</p>	<p>1 2 3 4 5</p>

提言に対する改善報告書

大学名称 山梨英和大学 (評価申請年度 2009)

1. 助言について

No.	種 別	内 容
6	基準項目	1 教育内容・方法
	指摘事項	(3) 教育研究交流 2) 中期留学制度 (カナダにおける15週間の研修とボランティアワークなど) において、20単位と学修時間に比して過大な単位を認定していることは、単位制の趣旨に照らして、改善が望まれる。
	評価当時の状況	本学院と原点ともいえるカナダ・メソジストと深い関わりを持つオンタリオ州ウォータールー大学セントポールズ・カレッジとの相互交流協定を締結した2007年度から、本学学生を短期(2週間)あるいは中期(15週間)にわたって派遣するプログラムを開始した。特に中期留学にあっては、渡航前にネイティブ教員による英語運用能力向上のための集中講座の実施、本学で半期履修したものとみなす単位認定並びに経済的負担軽減のための措置を新たに導入することなどにより、学生が積極的に参加できるように配慮している。現地のカリキュラムは、4週間のESL (English as a Second Language) 及び本学学生用に開設した3科目 (カナダの歴史と文化など)、加えて教会におけるボランティア活動への参加などが主な内容である。
	評価後の改善状況	2011年度以降のカナダ中期留学における修学の単位認定については、20単位から次のとおり8単位 (カナダの社会と文化) + 1単位 (Intensive English) の認定に改めた。 ・「カナダの社会と文化」 基礎科目、8単位 (集中) とし、5月～8月 (15週間) に現地学生と寮生活をともにしながらESL等を学ぶカナダ中期留学生用科目として教育課程に位置付けた。 ・「Intensive English」 基礎科目、1単位 (集中) とし、従前事前学習として実施していた課外授業を、15回分実施する英語能力向上を目指すカナダ中期留生用科目として教育課程に位置付けた。 なお、2011年度カナダ中期留学者数は9名であった。
改善状況を示す具体的な根拠・データ等 2011年度「シラバス」(104ページ、175ページ、抜粋)		

<大学基準協会使用欄>					
検討所見					
改善状況に対する評定	1	2	3	4	5

提言に対する改善報告書

大学名称 山梨英和大学 (評価申請年度 2009)

1. 助言について

No.	種 別	内 容
7	基準項目	1 教育内容・方法
	指摘事項	(4) 学位授与・課程修了の認定 1) 学位論文審査基準の学生への明示が不十分であるので、大学院履修要項などに明示することが望まれる。
	評価当時の状況	修士論文の審査及び最終試験の審査基準は、①修士論文における主張が明確な根拠に基づき、根拠を論文に明記しているか、②論文における主張が深い考察に基づくのであれば、多面的観点からの検討が十分になされている筈であり、口頭試問において修士論文の内容を明瞭に提示し、教員の質問に的確に回答できるか、③心理臨床の専門家養成を目的とする本専攻にあっては、学生には高い臨床的コミュニケーション能力や臨床家としてあるべき姿勢の会得が望まれることから、それらをどの程度身に付けまた発揮できるか、④修士論文作成に向けた研究活動及び執筆に係る全過程における取り組み姿勢並びに作成の前提となる臨床活動への取り組み姿勢はどうであるかである。
	評価後の改善状況	2010 年度以降の大学院学生便覧中の「5. 修了について」中の「5. 2. 8 修士論文の審査」項目において審査体制、審査基準を明示した。 なお、合格した論文又は要旨は、教員 2 名の査読条件を付し、「心理臨床センター紀要」へ掲載するものとした。
改善状況を示す具体的な根拠・データ等 2010 年度「大学院学生便覧」(13～14 ページ、抜粋)		
< 大学基準協会使用欄 >		
	検討所見	
	改善状況に対する評定	1 2 3 4 5

提言に対する改善報告書

大学名称 山梨英和大学 (評価申請年度 2009)

1. 助言について

No.	種 別	内 容
8	基準項目	2 研究環境
	指摘事項	1) 提出された資料によると、研究活動が低調な教員が散見されるので、研究活動のさらなる活性化を図り、継続性を確保するよう改善が望まれる。また、在外・内地研究員制度が活用できていないので、制度を利用できるよう研究環境を整えることが望まれる。
	評価当時の状況	<p>著書及び学術論文の過去5年間の発表点数の推移は、最近停滞傾向にあること及び教員ごとのばらつきが目立つことを指摘できる。「山梨英和大学紀要」への論文掲載数も、2002年度創刊号は7点、2003年度第2号は10点、2004年度第3号は15点と順調であるが、2005年度第4号は9点、2006年度第5号は8点、2007年度第6号は6点と低迷している。</p> <p>教員の研修機会として、国内外の大学及び研究所などで研究を行う「在外・内地研究員制度」がある。研修期間は長期（1年間）、中期（半年間）、短期（1箇月未満）の3種類である。本制度に係る規程を1987年度に制定した際、現体制による実施は教学運営上支障を生じるおそれがあるとの理由で長期については当面実施しないこととしているが、中期及び短期にあっても2005年度以降の利用者はいない。</p>
	評価後の改善状況	<p>研究活動が低調な教員が散見される一つの要因として、大学運営に費やす時間が研究時間を圧迫している事情があるため、2012年2月に従前、教員が担っていたグループ主任（グループA・B・C）、図書館長（附属図書館）、教務部長（教務部）、学生部長（学生部）、進路支援室長（進路支援室）、入試部長（入試部）等の役職（事務組織）を廃止し、事務組織を学長室、学生サービス部、広報戦略部、社会連携センター、チャペルセンター等に改編した上で、3名の副学長（社会連携担当、学生サービス担当、広報戦略担当）による管理・運営体制に改め、また、同時に各種委員会等の整理・統合、見直し、業務全般の合理化等を推し進め、教員が在外・内地研究員制度を活用できる環境の整備を図ったところである。</p>
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等	<p>1. 2011年度組織改編 2. 学校法人山梨英和学院組織規程（抜粋）</p>

<大学基準協会使用欄>					
検討所見					
改善状況に対する評定	1	2	3	4	5

提言に対する改善報告書

大学名称 山梨英和大学 (評価申請年度 2009)

1. 助言について

No.	種 別	内 容
9	基準項目	3 教員組織
	指摘事項	1) 専任教員の年齢構成において、51～60 歳の割合が 34.3%と多いので、全体的なバランスを保つよう、今後の教員採用計画などにおいて、改善の努力が望まれる。
	評価当時の状況	教員組織（人間文化学部）の年齢構成比は、大学基礎データ（表 21）のように、30 歳以下 6.3%、31～40 歳 18.8%、41～50 歳 21.8%、51～60 歳 34.3%、61 歳以上 18.8%となり、50 歳代の全体に占める割合が突出している。（2008 年度）
	評価後の改善状況	<p>教員組織における年齢構成適正化のため、数年の間に予定している教員退職に伴う後任補充にあたっては、特に 45 歳以下の世代を補充する配慮を行なったが、自己都合等による 40 歳以前の者の退職等の状況が生じたところである。</p> <p>2009 年度から 2013 年度までの 5 年間ににおける各年代別の退職者に対する補充採用者の対比では、30 歳以下では 1 名増、31～40 歳では増減なし、41～50 歳では 1 名増、51～60 歳では 1 名減、61 歳以上では 5 名減であり、50 歳以下では 6 名の退職者に対して 8 名を採用し、51 歳以上では 9 名の退職者に対して 3 名の採用に留めたが、2013 年度における年齢構成比は、30 歳以下 6.9%（指摘時 6.3%）、31～40 歳 13.7%（指摘時 18.8%）、41～50 歳 17.2%（指摘時 21.8%）、51～60 歳 34.5%（指摘時 34.3%）、61 歳以上 27.5%（指摘時 18.8%）である。</p> <p>なお、定年等による専任教員の退職については、2013 年度末 3 名、2014 年度末 3 名、2015 年末 1 名が見込まれるため、今後の後任補充にあたっては引き続き特に 45 歳以下の世代を補充する等の配慮を行い一層の改善を図るものとする。</p>

改善状況を示す具体的な根拠・データ等

2013年5月1日現在における専任教員年齢構成(旧表 21)

学部・研究科	職位	71歳以上	66歳～70歳	61歳～65歳	56歳～60歳	51歳～55歳	46歳～50歳	41歳～45歳	36歳～40歳	31歳～35歳	26歳～30歳	計
人間	教授	1 6.7%	2 13.3%	3 20.0%	4 26.7%	3 20.0%	1 6.7%		1 6.7%			15 100%
	准教授			2 28.6%		2 28.6%		3 42.9%				7 100%
文化	専任講師					1 33.3%		1 33.3%		1 33.3%		3 100%
										2 50.0%	2 50.0%	4 100%
学部	助教											
	学部計	(1) 3.4%	(2) 6.9%	(5) 17.2%	(4) 13.8%	(6) 20.7%	(1) 3.4%	(4) 13.8%	(1) 3.4%	(3) 10.3%	(2) 6.9%	(29) 100%
大学合計		1 3.4%	2 6.9%	5 17.2%	4 13.8%	6 20.7%	1 3.4%	4 13.8%	1 3.4%	3 10.3%	2 6.9%	29 100%
	定年 65歳											

2009年度から2013年度退職教員、採用教員年齢構成

(基準日 5月1日)

区分	年齢	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	合計	差異
前年度退職者 (次年度基準日現在)	～30歳	1					1	
	31歳～40歳	2	1			1	4	
	41歳～50歳				1		1	
	51歳～60歳			1	1	1	3	
	61歳～	2		2	1	1	6	
当年度採用者	～30歳				1	1	2	1
	31歳～40歳		2			2	4	0
	41歳～50歳	1			1		2	1
	51歳～60歳			1		1	2	-1
	61歳～	1					1	-5
専任教員数	32	29	30	28	27	28	-	-
増減		-3	1	-2	-1	1	-4	-

<大学基準協会使用欄>

検討所見	
改善状況に対する評定	1 2 3 4 5

提言に対する改善報告書

大学名称 山梨英和大学 (評価申請年度 2009)

1. 助言について

No.	種 別	内 容
10	基準項目	4 施設・設備
	指摘事項	1) 大学院学生用のパソコンの台数が大学院学生の数に比して不足していること、インターネットへの接続が不自由なことなど、大学院学生の研究環境に問題がみられるので改善が望まれる。
	評価当時の状況	<p>本学では、IT リテラシーの徹底を図るため、学生がパソコンを経済的に購入できるよう斡旋するとともに、学内に使用可能なパソコンを配備するよう配慮している。配備状況については、授業用も含めると、CALL教室50台、情報処理教室86台(授業用63台、その他23台)、卒業研究実習室11台、情報メディア共同研究室1台、心理学実験室12台、心理カウンセリング共同研究室2台、表現文化共同研究室2台、附属図書館11台、進路支援室4台、大学院講義室6台などとなっている。</p> <p>情報処理機器などの整備にあたっては、量的な充実とともに、時代に合わせたシステムやコンテンツの拡充が必要となることから、財政状況を鑑みながら、計画的に対処する。</p>
	評価後の改善状況	<p>大学院学生用のパソコンの台数については、2011年11月に大学院院生研究室にHP Compaq 6200 ProsSFを4台増設し、また、2012年7月に共同利用が可能な学部心理学実験演習室にHP Pavilion dv6-7000/CTを10台増設し、改善を図った。</p> <p>また、インターネットへの接続については、従前の大学院院生研究室での有線LANに加え、2012年前期中に山梨英和大学無線LAN構築工事を行い、2013年度からの大学、大学院全学内で無線LAN設備の供用を開始し、研究環境の改善を図った。</p> <p>なお、大学院院生研究室の使用については、各院生に機械警備通信システム警戒・解除操作タグを貸与し、深夜24時までの利用を許可し、一層の研究環境の改善を図った。</p>
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等	<p>1. 注文書(3件)</p> <p>2. 機械警備通信システム警戒・解除操作タグ配布一覧</p>

<大学基準協会使用欄>					
検討所見					
改善状況に対する評定	1	2	3	4	5

提言に対する改善報告書

大学名称 山梨英和大学 (評価申請年度 2009)

1. 助言について

No.	種 別	内 容																								
11	基準項目	5 財務																								
	指摘事項	1) 今後、学生数の確保による学生生徒等納付金収入の増により、単年度における安定した財政基盤の強化を図るとともに、繰越消費支出超過額を解消することが求められる。																								
	評価当時の状況	経営基盤の確立は、主要な収入源である学生納付金の確保にかかっている。本学においては帰属収入の約8割を学生納付金に依存しているため、学生数の確保が喫緊の課題である。 学生募集体制を強化するとともに学生募集方法を毎年度見直すことにより、入学定員（1年次入学定員250名、3年次編入学定員20名）の確保を目指す。																								
	評価後の改善状況	1 学生数の確保について 学生数の確保に向けては、次とおり改善策等を講じ、一層の入学者数の確保に取り組んでいる。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>1年次生</th> <th>3年次生</th> <th>合 計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2009</td> <td>225</td> <td>64</td> <td>289</td> </tr> <tr> <td>2010</td> <td>255</td> <td>66</td> <td>321</td> </tr> <tr> <td>2011</td> <td>191</td> <td>54</td> <td>245</td> </tr> <tr> <td>2012</td> <td>199</td> <td>61</td> <td>260</td> </tr> <tr> <td>2013</td> <td>200</td> <td>63</td> <td>263</td> </tr> </tbody> </table> (1) 入試制度等の改善 ① 特待生制度の充実 特待生制度（学費減免：国立大学並みの学費とするために1・2年次の授業料を年額425,000円減免、3・4年次については学内審査により継続可）の対象者については、2009年度までの一般入学A上位20%（最大50名）を2010年度からは一般入試A上位30%（最大50名）及びセンター試験入試得点率70%以上（全員）に拡大し、更に2013年度からは一般入試A上位30%（最大50名）、センター試験入試得点率70%以上（全員）に一般入試B上位30%（最大10名）を加え、対象者を順次拡大し、学力の高い学生の確保を目指した。（2013Campus guide 46P参照） ② 奨学金制度の充実 奨学金制度については、2010年度に予約奨学金制度（給付奨学金S種、校長からの推薦により優秀な人物で本学の教育に関心を持ち、学習に意欲的であるにもかかわらず家計状況により進学を断念せざるを得ない受験者に奨学金の給付を	年度	1年次生	3年次生	合 計	2009	225	64	289	2010	255	66	321	2011	191	54	245	2012	199	61	260	2013	200	63	263
年度	1年次生	3年次生	合 計																							
2009	225	64	289																							
2010	255	66	321																							
2011	191	54	245																							
2012	199	61	260																							
2013	200	63	263																							

		<p> 約束する制度：原則 4 年間、年額 400,000 円を給 付) を導入し、更に 2011 年度に給付奨学金 E 種 (従来の成績による特待生制度に家計基準を組 合わせた特別な給付奨学金制度：学業特待生とし ての学費特典を 75,000 円増額し 500,000 円を給 付する。) を導入し、優秀な学生の確保を目指し た。(2013Campus guide 44・47P 参照) また、2012 年度に長野彌奨学金 (学校法人山 梨英和学院として元理事長の寄附を受け、特定預 金化していたもの及び山梨英和学院後援会から 寄付を受け留保していた資金を活用：学業奨励奨 学金 200,000 円、学業継続奨学金 150,000 円を給 付) を導入し、更なる学生募集の対策強化を図り、 入学定員以上の学生の確保を目指した。(根拠・デ ータ 3、CAMPUS GUIDE 2014 45P 参照) </p> <p> ③ 被災者支援特別入学制度の創設 2011 年度から当面 3 年間限定で、キリスト教 の信仰に基づき広く知識を授け、深く専門の学芸 を教授研究するとともに、知的、道徳的及び応用 的諸能力を展開させ、もって国際的視野に立つよ りよき社会人としての人間形成を行うことを目 的とする本大学の使命及び平成 23 年 3 月 18 日付 け文部科学副大臣名での通知等を踏まえ、キリス ト教の学校として進むべき道として、教職員の総 意で、東日本大震災で被災され、大学進学を断念 されかけている者のひたむきな情熱と自助努力 に、大学が全面的にバックアップして大学での学 びに架け橋を架ける制度として被災者支援特別 入学制度 (入学検定料・卒業までの学費全額免除、 4 年間の住居提供、生活費毎月 50,000 円助成) を創設した。 本制度により、2011 年度に 1 名 (2011 年 6 月 8 日入学式挙行、復興支援への決意等の事情で 9 月 23 日付け退学)、2012 年度に 3 名、2013 年度 に 2 名を受入れたことにより、結果として、大学 の入試広報効果が上がったと思われる。(根拠・デ ータ 4 参照) </p> <p> (2) オープンキャンパスの改善 『日本一あたたかい大学』というキャッチコピー を定め、2011 年以降このキャッチコピーを積 極的に活用すると同時に、学内のすべての組織、 教員、職員がこの『日本一あたたかい大学』を体 現する存在となるように日々努める努力を行う ものとした。オープンキャンパスにおいても大学の 最重要学内行事と位置付け、全学的にこの精神 で取り組むものとし、「学生スタッフと先生と本音 トーク」、「教授に会いに行こう」の場を設ける等 の努力をした。2012 年度からは、従来の学部に ついてのオープンキャンパスに加え、大学院オー プンキャンパスを同時開催する日程を 2 日間 (8 月及び 10 月) 設け、大学院担当教員による大学 </p>
--	--	---

		<p>院紹介及び施設見学、ミニシンポジウム、模擬授業、個別相談等のプログラムを行い、各回とも20名程度の参加者を迎えた。2013年度においても、8月及び10月に実施する予定である。</p> <p>(2013Campus Guide 50P 参照)</p> <p>なお、2013年度は、オープンキャンパスにおいて本学の教育内容への理解を深めてもらうための有効なプログラムの1つである模擬授業の各回担当者を早い段階で確定し、模擬授業のタイトル及び内容をホームページに掲載して広報を行っている。(根拠・データ5 参照)</p> <p>(3) 広報活動の充実</p> <p>① 大学案内の改善</p> <p>2012年度の大学案内「2013Campus Guide」は、大学案内のイメージを刷新するため、製作者をコンペにより選定した。内容については、特に3年次からの専門教育の内容(7コース制)をわかりやすく紹介し、且つ表紙デザインを含め高校生が馴染みやすい誌面をつくることに編集方針の重点をおき、卒業生及び在学生のメッセージを多く掲載する等、高校生に近い視点で大学を紹介した。表紙デザインに使用した虹の7色は、本学の7コース制をイメージしたものであるとのコンセプトをオープンキャンパス等の説明会で活用したことにより、高校生及び高校教員、保護者等の間に徐々に本学のカリキュラムへの理解を浸透させるに至っている。特に学部の心理系コースの延長となる大学院についても新たに紹介ページを設け、学部のみならず、大学院受験希望者への広報としても活用している。</p> <p>また、2013年度の大学案内「Campus Guide 2014」についても前年の基本方針を踏襲し、製作者を変更することなく、前年度に聴取した意見・要望により不足していた情報を補うため、初年次教育のページを新たに加え、キャリアサポート関係を6ページ(前年2ページ)に、大学院紹介を4ページ(前年2ページ)に増やし、学長と在学生对談形式で大学について語る企画を新規に用い、高校生、保護者のみならず一般及び企業担当者等に対する大学案内としても活用できるよう充実を図った。</p> <p>② ホームページの改善</p> <p>2012年度に大学案内を改善したことに伴い、ホームページのリニューアルを行った。当初は、全面的なリニューアルを念頭においていたが、再構築のための整備・確認作業を進める中で、本学ホームページ開設以来、度重なるメニューの追加・修正作業により階層的にページ数が膨れ上がっていることが確認されたため、2012年度においては、既存の管理プログラムの調査・検証を重ね、トップページのイメージリニューアル、グロ</p>
--	--	---

		<p>ーバルメニューの再構成、サイトマップの作成、文字サイズ変更機能の追加、訪問者別メニュー（受験生の方、在学生の方、など）の再構成等、ユーザビリティを高めるための修正作業を優先事項としてリニューアルを行った。</p> <p>また、2013 年度の大学案内（パンフレット）で紹介できなかったゼミについては、ホームページ「大学案内」の「教授に聞こう」に掲載し紹介している旨を誌面に明記することで、冊子媒体とインターネットを連動させた広報活動を行っている。（根拠・データ6 参照）</p> <p>③ 出張講義関係資料の改善</p> <p>従来、入試・広報活動の一環として作成・配付していた「出張講義関係資料」は、本学の教員をおもに山梨県内の高等学校に派遣する出張講義を紹介する冊子であるが、2013 年度から、この冊子のレイアウトと内容を、各高校担当者が講師選定を行いやすいものに改善した。また、近年、各高校独自で企画し、企業と高等教育機関等をまわる見学ツアーを授業の一環として行う例を本学でも受け入れていることから、バスでの見学ツアーにも対応できる旨の内容を追加した。（根拠・データ7 参照）</p> <p>(4) 出入口等のバリアフリー化</p> <p>本学には、在学生（2012 年度新入生を含む。）の中に身体障がい者（車椅子利用者、歩行不安定者等）や、生涯学習として開講する一般市民対象公開講座受講者の中に高齢者が含まれていること等を踏まえ、これらの者の利便性、安全性の確保、ひいては身体障がい者、社会人等の入学者の確保を図るため、2012 年度文部科学省「防災機能等緊急強化特別推進事業」の補助を一部受け、次のとおり自動扉化工事を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義棟 1 階正面出入口（片面） ・附属図書館外側出入口 ・学生食堂北側出入口（内外 2 か所） ・事務棟 1 階北側出入口（内外 2 か所） ・ゼミカフェ（学生休息室）出入口 <p>また、2013 年度においても同補助金を申請し、引き続き学内 7 カ所の自動扉化工事を行うものとしている。（根拠・データ8 参照）</p> <p>2 繰越消費支出超過額の解消について</p> <p>単年度における安定した財政基盤の強化及び繰越消費支出超過額の解消に向けて次のとおり改善策を講じた。</p> <p>(1) 財政基盤の強化</p> <p>昨今の運用金利、支払利息等を考慮し、金利負担の軽減を図り、安定的な経営を図るために、日本私立学校振興・共済事業団に高利率（4.2%及び 3.25%の 2 本）で借り入れている借入金の繰入償還の打診、市中銀行への適用金利の優遇措置</p>
--	--	---

	<p>等の打診を行い、借入金の繰上償還等を行い、金利負担の軽減を図った。</p> <p>(2) 繰越消費支出超過額の解消(根拠・データ 11 参照)</p> <p>繰越消費支出超過額については、今後、学生納付金収入、補助金収入の確保、外部資金の受入れ等による一層の財政基盤の強化、改善に取り組むこととしている。</p>
<p>改善状況を示す具体的な根拠・データ等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2013Campus Guide (別冊資料 2) 2. CAMPUS GUIDE 2014 (別冊資料 3) 3. 山梨英和学院ホームページ「お知らせ」記事 (抜粋) 4. 東日本大震災被災者支援特別入学制度案内、大学 HP 記事 (抜粋) 5. 大学ホームページ「オープンキャンパス模擬授業紹介」(サイト入口画面ページ) 6. 大学ホームページ「教授に聞こう」(サイト入口画面ページ) 7. 2013 年度山梨英和大学出張講義関係資料 (別冊資料 4) 8. バリアフリー工事資料及び請求書他 9. 日本私学振興・共済事業団への繰上償還申出書 (2 通) 10. 山梨中央銀行との変更契約証書 (2 通) 及び会計伝票 11. 平成 21(2009)年度～平成 24(2012)年度決算書 (抜粋) 12. 平成 24(2012)年度財務計算書類、監事監査報告書 (写し)、監査法人の監査報告書 (写し) <p>また、ホームページアドレスは、次のとおりです。</p> <p>山梨英和大学 http://www.yamanashi-eiwa.ac.jp/ 学校法人山梨英和学院 http://www.yamanashi-eiwa.jp/</p>	
<p><大学基準協会使用欄></p>	
<p>検討所見</p>	
<p>改善状況に対する評定</p>	<p>1 2 3 4 5</p>